

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岡山県

●地域における現状・課題

- ・本県においても、全国的な傾向と同様に、公立中学校の生徒数は年々減り続けており、働き方改革の進展とあいまって、学校部活動を従前と同じ体制で運営することは難しくなっている。特に、中山間地域では部員数が足りず学校単位でチームが組めない場合や、地域の人材不足により、部活動指導員が見つからず、教員の負担は今までと変わらない現状等があり、学校部活動のみでは、教員の働き方改革の推進及び生徒の多様なスポーツ・文化芸術活動の環境が整備できなくなっている。

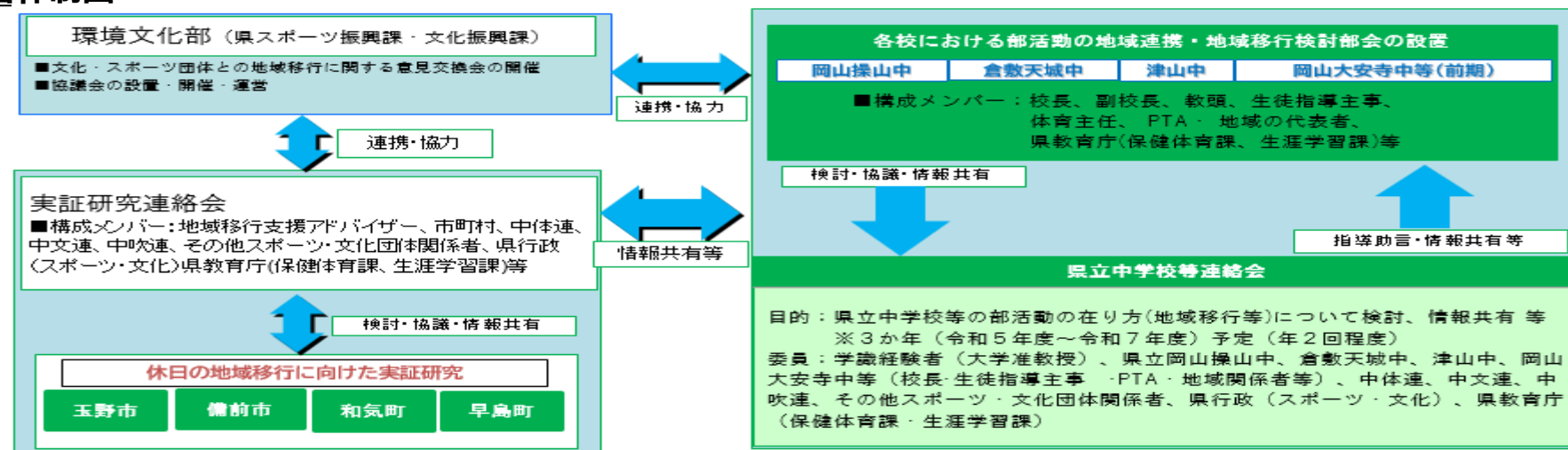
●取組事項の概要

- ・これまで実施してきた実践事業の成果と課題を踏まえ、「①地域の実情によって異なる様々な課題に対し、助言等を行うため、地域移行支援アドバイザーを派遣し、市町村の取組の支援」「②県立中学校等における地域連携・地域クラブ活動への移行の課題を整理し、連絡会等を行い、各校部活動ごとの地域移行に向けたロードマップの作成」「③4市町のモデル地域において、実証事業の実施」し、特に運営団体等の確保について、総合型地域SC等の運営団体による実証事業に取組み、好事例となる体制構築を行った。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団など、既存の団体と連携し、モデル自治体の実情に応じた地域連携、地域クラブ活動への移行が例として示せた。
- ・会議ごとに地域移行支援アドバイザーからモデル自治体へ指導助言等を行い、モデル自治体の支援を行うことができた。
- ・モデル自治体による成果発表会を行い、好事例を報告するだけでなく、アドバイザーも加えた情報共有等の時間を設けるなどの工夫を行った。
- ・県立中学校等には、丁寧に説明を行い、地域移行への理解が深まり、地域移行に向けたロードマップの作成に着手することができた。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岡山県玉野市

●地域における現状・課題

本市の運動部は、陸上競技、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球の7種目がある。サッカーとバレーボールは、岡山市の中学校、軟式野球は、市内5校と合同チームで大会に出場したり、合同練習を行ったりしている。その他、単独で部活動が成立していない種目もある。

部活動の地域移行に向けて、動き始めたばかりのため、市民（教員、保護者、生徒を含む）の認知度が低い状態である。課題としては、教員、保護者、生徒の認知度の低さに加え、受益者負担の検討、会場確保、生徒の輸送手段の確保、希望する教員の兼職兼業の許可、対象中学校・対象部活動の選定、保険会社との提携、指導者の配置、休日の部活動にかわる地域クラブ活動の開始等々が挙げられる。

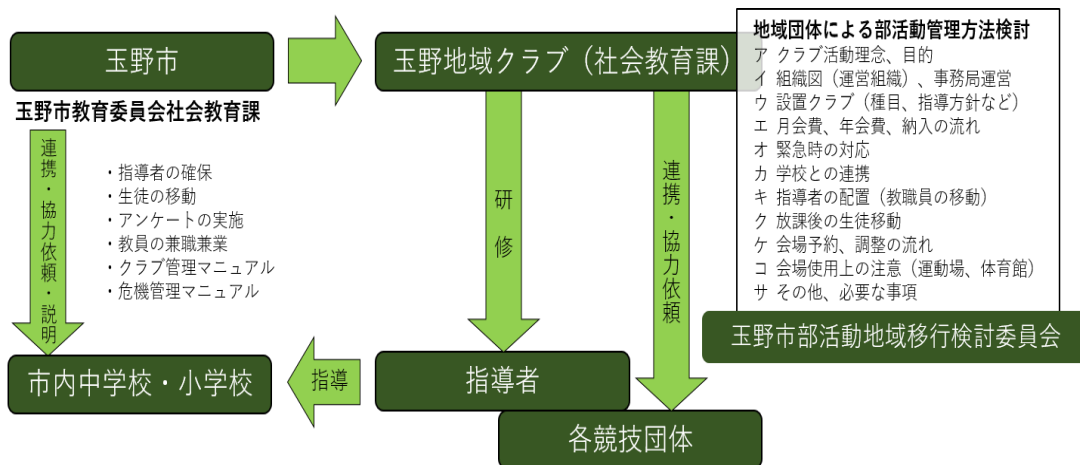
●取組事項の概要

- ・部活動の地域移行に向けて、検討委員会を設置し、陸上競技、バスケットボール、軟式野球の3種目について実証事業を行った。
- ・実証事業の実施にあたり、各部活動の顧問や関係団体と連携し、各種競技に精通した方を講師として依頼した。
- ・Googleクラスルームによる参加者募集や申込、同種目を複数回、複数会場での実施 等々

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・実証事業を通して、部活動の地域移行について学校、保護者、生徒、児童に令和8年度から休日の学校部活動が地域移行することを周知することができた。
- ・部活動顧問、指導者、関係団体等との面談を通して、各種目の現状を把握することができた。（いくつかの種目）
- ・指導者の選任にあたっては、実際に教室を開催している総合型スポーツクラブに協力を求めることで、各種競技や文化分野に精通した方を紹介してもらうことができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- （1）運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- （2）運営主体：CROSS LINK バスケットクラブ
- （3）種目：バスケットボール
- （4）指導者の主な属性：民間事業者（実証事業を受託している事業者）
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：月2回程度
- （6）主な活動場所：玉野市立宇野中学校、日比中学校体育館
- （7）主な移動手段：保護者の自家用車での送迎、自転車、徒歩
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：2,400円/年
- （7）1人あたりの保険料：生徒約100円/回・指導者約2,200円/年

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岡山県備前市

●地域における現状・課題

部活動については、少子化に伴う生徒数の減少による影響が大きく、学校間での格差が大きくなっていると感じる。1つの学校で9部活ある学校もあれば、1つの学校に2部活しかない学校があるなど、生徒数の違いにより、活動できる状況が大きく異なっている。規模の小さい学校では、廃部や休部、活動の縮小に追い込まれる部活動も少なくない。生徒にとっては自分のやりたい部活動がなく、あったとしても少ない部員数であることで活動が低調となり、魅力を感じられないという状況が生じることもある。

●取組事項の概要

運動部活動の地域移行については、部活動にかかわりのある指導者に依頼をしており、中学生と面識があることで、これまでと同様にスムーズな活動ができるよう、中学生への負担が少なくなるようにした。

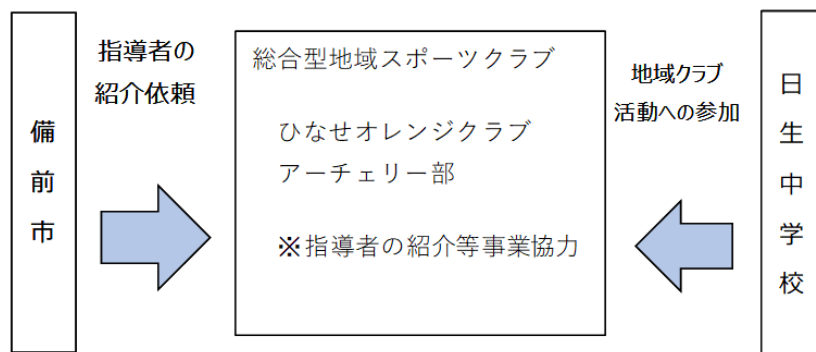
また、指導者は外部指導者や教員を退職された方に依頼し、安心して指導が任せられる体制とした。

●取組の成果、特に工夫した点等

地域移行を行うことになっても、指導者は部活動と同じで中学生自身の活動には変化がなく、これまでと同様の活動ができたため、混乱や不安感といった中学生への負担は少なく、活動をスムーズに移行することができた。

また、学校との関わりもあったことから、学校との無理なく連携を図ることができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営主体：総合型地域スポーツクラブ
- (3) 種目：アーチェリー
- (4) 指導者の主な属性：アーチェリー協会
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月1回
- (6) 主な活動場所：日生アーチェリー場
- (7) 主な移動手段：自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒30円／指導者30円（1日当たり）

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岡山県早島町

●地域における現状・課題

- ・部活動指導員を配置しているが、地域移行に向けて前進していない。
- ・地域に総合型地域スポーツクラブがなく、部活動の地域移行の受け皿がない。
- ・兼職兼業、施設開放、保護者負担金についての検討が進んでいない。

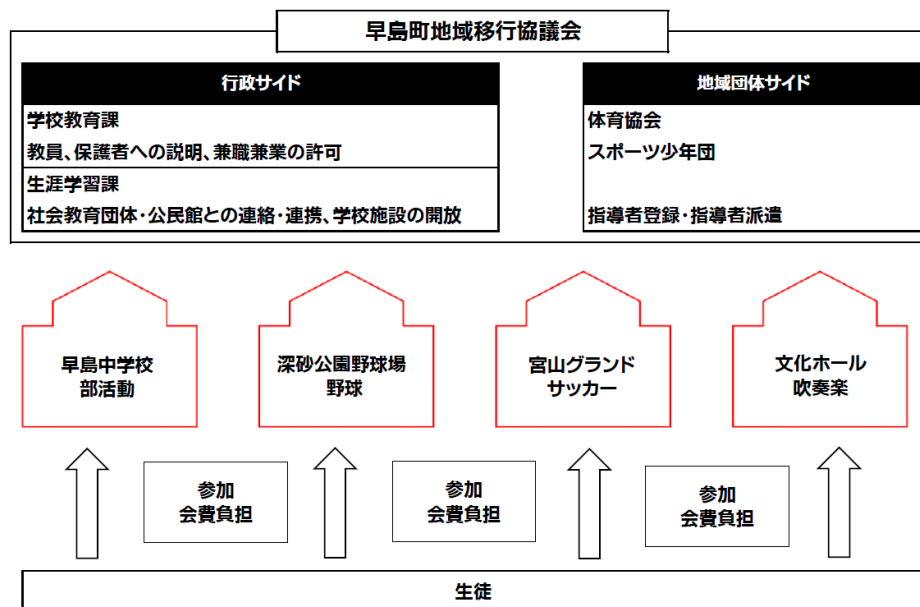
●取組事項の概要

- ・地域指導員を各部活動に配置し、平日を含め、休日の部活動を指導する。
- ・学校に事務局指導員を配置し、休日指導員の勤務時数の確認や配置、大会等の引率旅費等についての取りまとめを行う。
- ・総合型地域スポーツクラブの創設に向けた協議を行い、部活動の地域移行の受け皿づくりを検討する。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・町の社会体育施設の指定管理化に併せて、指定管理者に総合型地域スポーツクラブの運営を委託するための協議を開始した。
- ・一部の部活動では、平日や休日も含めて地域指導員が中心となって活動をする体制を作ることができた。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

岡山県和気郡和気町

●地域における現状・課題

・岡山県南東部に位置する本町（令和5年11月末現在の人口約13,200人）は、標高200～400mの山々に囲まれた自然豊かな町である。本町では、令和3年、「第2次和気町総合計画」を策定し、スポーツの振興に取り組んでいる。これまで、高齢化の進展に伴う健康寿命の延伸、スポーツへの参加機会の拡充のため、町内にある総合型地域スポーツクラブ（和気クラブ）との連携を進めてきた。多世代、多種目、多志向の要素を併せもつ同クラブは、種目によって存続が難しくなっている中学校部活動の受け皿としてふさわしいものであることから、本町では昨年度、部活動の地域移行に向けた検討委員会を設置し、中学生のスポーツ・文化環境づくりについて検討・協議を重ねている。

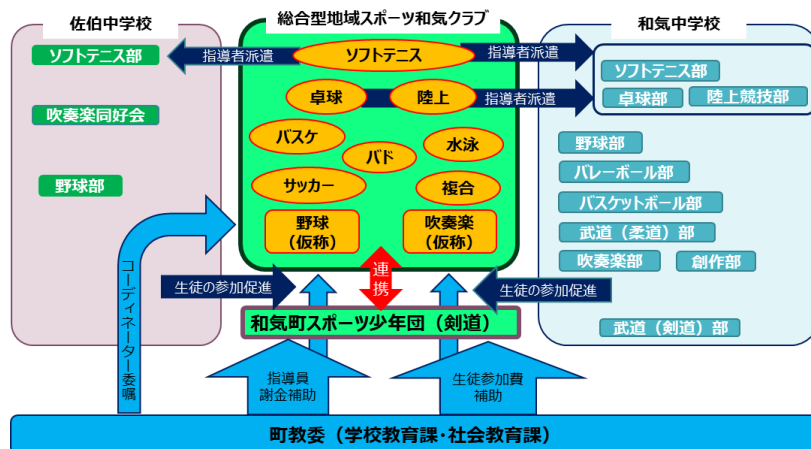
●取組事項の概要

- ア 関係者との連絡調整・指導助言等の体制づくり：部活動の地域移行に向けた検討委員会、和気クラブ理事長を町のコーディネーターに委嘱
- イ 指導者の質の保証・量の確保：質の保証…大学教員を招いた指導者研修会の開催 量の確保…移住者コミュニティへの働きかけ、大学との連携、町広報誌の活用
- ウ 関係団体・分野との連携強化：学校・受け皿となる団体の指導者・町教委事務局との協議による方向性の共有、首長部局やスポーツ少年団、大学との連携
- エ 面的・広域的な取組：メディアを通じた取組の発信（新聞、テレビ局）、県内市町村担当者向けに取組事例を紹介、近隣自治体への取組発信
- オ 内容の充実：多様なスポーツ環境の整備（ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール、バドミントン、剣道）、生徒のニーズに応じた活動環境の確保、各種大会への参加
- カ 参加費用負担の支援等：町費負担による中学生の参加費の実質無償化
- キ 学校施設の活用等：運動場の活用（陸上競技）旧校舎の活用（吹奏楽）

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・議会全員協議会での説明、町広報誌による啓発→全町的な取組に（ア）
- ・中学校にない種目の開設等、多様な活動の場の創出（ア、オ）
- ・研修会参加者どうしによる意見交換。中学生期の指導を行うにあたって必要な3点に特化した研修の実施。（イ：質の保証）
- ・指導者集めをする際のフレーズの工夫（「中学生を指導できる人」という表現を用いず「子どもたちと一緒に〇〇で体を動かしませんか？」という表現を使用（イ：量の確保）

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営主体：総合型地域スポーツ和気クラブ
- (3) 種目：陸上競技、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン
- (4) 指導者の主な属性：会社員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：陸上・ソフトテニス…月8回程度
- (6) 主な活動場所：陸上競技（和気小、佐伯中運動場）、ソフトテニス（和気鶴飼谷温泉テニスコート）、バスケットボール（和気町体育館）、バドミントン（和気町体育館）
- (7) 主な移動手段：自転車または保護者送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：
教室活動（陸上競技、ソフトテニス、バドミントン）：年会費3,000円、参加費1回500円、サークル活動（バスケットボール、バドミントン）：年会費3,000円、参加費無料
- (7) 1人あたりの保険料：生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年